

# 平成15年度学力向上フロンティア事業中間報告書

和歌山県

## I. 学校の概要（平成15年4月現在）

| 田辺市立上秋津中学校 |    |    |    |      |     |     |
|------------|----|----|----|------|-----|-----|
|            | 1年 | 2年 | 3年 | 特殊学級 | 計   | 教員数 |
| 学級数        | 2  | 2  | 2  | 0    | 6   | 11  |
| 生徒数        | 51 | 57 | 53 | 0    | 161 |     |

## II. 研究の概要

### 1. 研究主題

学ぶ喜びにあふれた学校づくり  
～内発的な学びの追求～

### 2. 研究内容と方法

#### (1) 実施学年・教科

- 1・2・3年生 数学・英語（生徒の理解度に差が出やすい教科、学年であるため）  
1・2・3年生 選択教科 英語・数学（少人数学習が実施しやすいため）

#### (2) 年次ごとの計画

平成14年度

- テーマ 「学ぶ喜びにあふれた学校づくり ～内発的な学びの追求～」  
○仮説 ①教科そのものが持つ魅力を感じさせることで学ぶ意欲は向上する。  
②知る喜び、学ぶ喜び、伝え合う喜びを共有化することで学力は向上する  
○研究内容・方法 ①研究テーマの設定・仮説の設定  
②研究の全体構想の作成  
③評価規準の研究・作成  
④英・数の研究授業  
⑤朝の読書の取り組み

平成15年度

- テーマ 「学ぶ喜びにあふれた学校づくり ～内発的な学びの追求～」  
○仮説 ①教科そのものが持つ魅力を感じさせることで学ぶ意欲は向上する。  
②知る喜び、学ぶ喜び、伝え合う喜びを共有化することで学力は向上する  
○研究内容・方法 ①生徒の学力調査  
②個に応じた分かる授業の実施（TT、少人数学級など）  
③評価規準の改善  
④授業研究の実施（英・数）  
⑤教材の開発・保存  
⑥成果の検証

平成16年度

○テーマ 「学ぶ喜びにあふれた学校づくり ～内発的な喜びの追求～」

○仮説 ①教科そのものが持つ魅力を感じさせることで学ぶ意欲は向上する。

②知る喜び、学ぶ喜び、伝え合う喜びを共有化することで学力は向上する

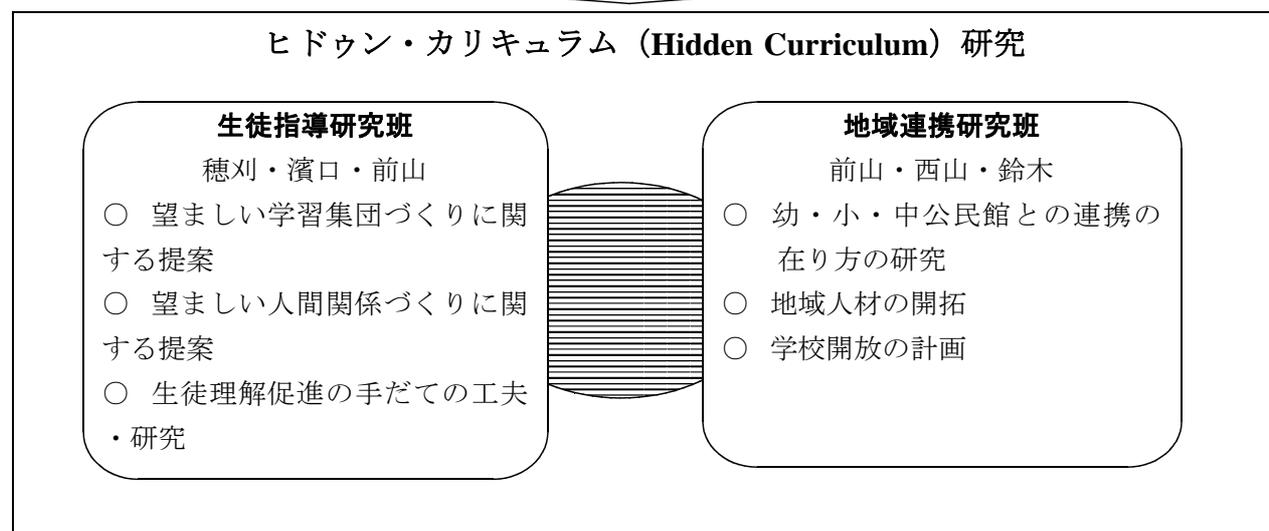
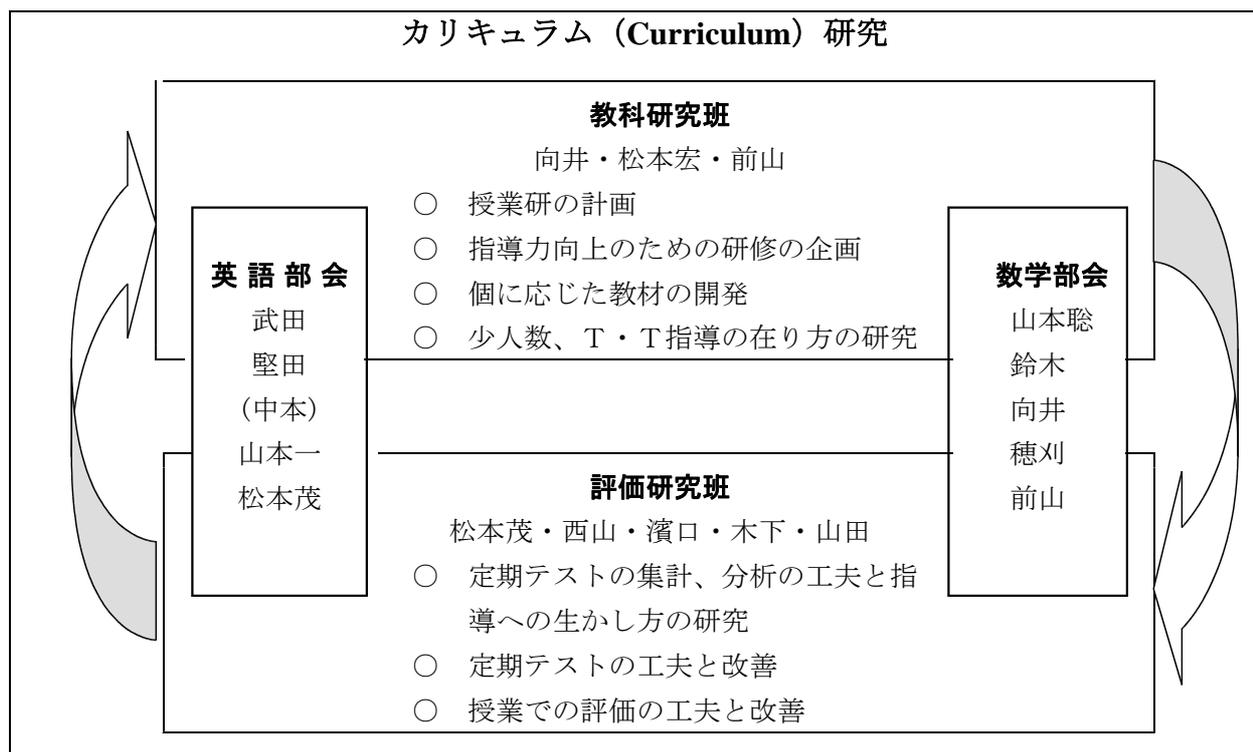
○研究内容・方法 ①評価規準の改善

②平成15年度の取り組みのさらなる充実

③授業研究の実施（英・数）

④成果の検証

### (3) 研究体制



### Ⅲ、平成15年度の成果と課題

#### (1) 朝の読書について

読む本の内容が少しずつ変化しており1年生時には4コママンガの類しか読まなかった生徒が2年生になり歴史物やファンタジーへと読む本が変わってきている。生徒同士の何気ない会話の中にも本が話題として取り上げられることも見受けられる。また、静かな雰囲気から遅刻の抑止にもつながっている側面も感じられる。

#### (2) ティームティーチング・基本と発展をコースにした課題別少人数指導について

[数学科] 理解が進んでいない生徒へのきめ細かい指導がしやすい。また、生徒もわかりにくいところを質問しやすい。普段の数学の授業とリンクして、時にはTTの形を採ったり、少人数に分かれて指導したりと様々な学習形態を工夫することができる。課題としては、生徒の到達度は九九の段階から、分数、正の数負の数、文字式とつまずき方は十人十色であり、なかなか思うように補充をしきれていない。選択A、数学の授業と効果的な連携を模索していく必要がある。

[英語科] 導入の際、ロールプレイによる見本ができたり、T1が説明時にT2が説明内容を板書したり、一斉指導と並行して、Slow learnerの個別指導をしたり、Readingのパート分けを行ったり、クラスを課題別に2つに分けてT1T2で指導したりと様々な指導形態を工夫することができる。また、生徒にとっては時間内に質問もしやすく、指導者にとってもアイデアの交換等、研修を深めることができる。課題としては、打ち合わせの時間の確保とよりよい指導法の検討・改善が挙げられる。

#### (3) 選択教科について

昨年度の反省を受けて、平成15年度は選択教科Aの担当者を学年担任が必ず担当することにして、普段の生活指導とリンクして行うことができるようにした。また、コースの内容を学年の状態に応じて設定したため、モチベーションの低い生徒が参加しやすいようになっている。さらに、指導の方法も工夫し、プリント主体の授業においても、つまずき確認から、個人の課題設定、ペア学習の導入、教師の役割の明確化とシステムチックに機能するようにしている。その結果、分かる授業の展開がすすみ、学習動機の向上にもつながっている。また、専門でない教員も専門教員と共に担当することで教科に対する見識が得られたり、生徒理解が深まるなど、教職員に与える影響は大きく、協働的な指導体制を作ることの一役買っている。ただ、課題としては、発展的な指導の充実と、極度の低学力生徒への指導の充実が進んでいない点と、課題設定から、授業の準備の時間が膨大にかかる点、さらに、コース選択時における生徒の選択理由が実際には人間関係を基にしている場合もある。

#### 《アンケート結果からの考察》

##### ①やる気をもって授業に取り組めたか。

\* 81%が、やる気をもって、またはだいたいやる気をもって取り組めたと回答しており、この形態での学習の目的がおおむね達せられたと考えられる。

##### ②学習内容は理解できたか。

\* 77%が、学習内容が理解できた、だいたい理解できたと回答しており、学習の内容につい

ては、ほぼ生徒の現状に適合したものになっていたと考えられる。ただ数学の基礎のコースについては、他のコースに比べ、生徒の力の差が大きかったためか、あまり分からなかったと回答した生徒の割合が多く、今後より個に応じた教材の工夫や、個別での対応の仕方の工夫の必要性があると考えられる。

③コース別学習についてどう思うか。

- \*全体として75～80% (3/4～4/5) が満足できるという前向きな回答をよせている。(コース設定の満足度が高い。ただし1/4の不満足の子のニーズへの対応のし方は要検討)
- \*とくに英語Ⅱについては選択した生徒の満足度が高い。(内容が生徒のニーズに合っている)

④自分の選んだコースは目的に合っていたか。

- \*約3/4 (73%) が目的に合っていたと回答している。(多数は適切な選択ができている)
- \*合っていなかったという生徒の理由は記述していないため明確ではない。  
(その理由として、オリエンテーション時の説明の不十分さ、コース内容の生徒のニーズとのズレなどの面で再検討の必要性がある)
- \*とくに英語Ⅱについては、全員がコースが自分に合っていたと回答している。  
(その理由として、英検など、目的、内容が明確であった。目的と活動内容が合致していた。学習活動により能動的で一人一人が活動できる場が確保できていたなどの理由がある。)

(4) ペア学習を活用した学級集団づくり

主に英語、数学、社会、理科などの教科で日常的に活用しており、生徒に定着してきている。また、どの教科でも自然発生的に、教え合うようになり、つまずきの早期発見がなされており、伝える喜び、教える喜び、互いに理解しあう喜びを感じつつある。通常の授業だけでなく、選択教科などでも有効的に機能しだした。

#### IV. 学力把握のための学校の取り組みについて

5月に2・3年生は学力テストを実施し、学習動機を計るテストと並んで分析し、学習の到達度と学習動機の相関について考察した。来年度も2・3年生において同じ内容のテストを行い、比較分析して生徒の学力を把握すると共に、研究の成果を検証したい。

#### V. フロントィアスクールとしての成果の普及について

教育委員会関係、育友会関係及び学校関係の代表で構成される西牟婁地方学力向上推進協議会の場で、それまでの取り組み状況や基本的な構想について報告した。また、田辺第二小学校で開催された中間発表会においては本校の取り組みの経過を発表し、批評を仰いだ。

第1回協議会 (平成15年7月29日 西牟婁総合庁舎)

第2回協議会 (平成15年10月20日 白浜中学校)

学力向上フロントィア事業中間発表会 (平成15年12月4日 田辺第二小学校)

今後、ホームページを作成し、取り組み状況を逐次報告しながら、同時に指導助言も得たいと考えている。

- ◇ 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】       3学級以下       4～6学級  
 7～9学級       10～12学級  
 13～15学級       16学級以上
- 【指導体制】       少人数指導       T・Tによる指導  
 その他
- 【研究教科】       国語       社会       数学       理科  
 外国語       音楽       美術       技術・家庭  
 保健体育       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無